

以下の①から⑤の新聞記事から二つを選び、それぞれ次の点につき答えなさい。

1. 記事において問題となっている労働法上の論点
2. その論点の前提となる法内容の説明
3. その論点に関する諸説
4. その論点に関する自らの見解

注意：1. 選択した記事番号を明記すること。二題の解答がないと回答とは認めない。二題の解答の順序は問わない。

2. 一題を解答用紙の表面に他の一題を裏面に書く目安で記述すること。解答に関係ない事項を記入した答案は無効と扱う。

3. 採点基準（各問50点満点、合計100点満点で採点する）

a) 設問の1. から4. の項目毎に、基本的には○△Xの三段階評価を行う。

b) 必要なことが述べられていれば○で10点、不十分ならば△で5点、関係することが何も述べられていないとXで0点。

c) さらに、独創的な考えがみられた場合には、各問共に10点の範囲で追加点をつける。

①ウーバーイーツ事件

朝日新聞 2019年06月13日付より作成

米配車大手ウーバー・テクノロジーズが日本で展開する飲食宅配代行サービス「ウーバーイーツ」の配達員らが12日、労働組合の結成に向けた準備会を都内で開いた。自転車や原付きバイクなどで配達する配達員は、個人事業主という立場でウーバーと契約しており、同社と雇用関係にはない。そのため労災や雇用保険の対象にならず、配達中に事故があっても治療費が自己負担になってしまう。

②厚生労働省事件

朝日新聞 2019年02月28日付より作成

厚生労働省の統計部局で働く50代の現役女性係長が、「性別を理由に昇格できない差別を受けている」として、国に謝罪と約1千万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が27日、東京地裁であった。判決によると、女性は1988年に国家公務員2種に合格し、翌年に旧労働省に入省。96年に係長になって以降、昇格していない。判決は、職員を昇格させる権限は「任命権者の広い裁量に委ねられている」と指摘した。

③想定外の転勤

朝日新聞 2012年03月26日付より作成

春は転勤が多い季節。でも、「転勤はない」と聞いていたのに、突然、上司から遠方への転勤を命じられ、困惑した経験がある人もいるかもしれません。本社採用された大卒社員などの場合には、様々な職場を経験させることでキャリアアップをはかる人事方針をとっている会社が一般的です。

④山梨県民信組事件

朝日新聞 2016年11月25日付より作成

県民信用組合（甲府市）が発足する過程で退職金を減らされたのは不当だとして、旧峡南信用組合の元職員12人が計約8千万円を県民信組に求めた訴訟の差し戻し審。旧峡南信組は2003年に旧甲府中央信用組合と合併。その際、旧峡南信組出身者は退職金の規定が変わり大幅に減額された。原告らは規定変更の同意書に署名したが、減額前の退職金を求めている。県民信組は甲府中央信組を存続組合として04年に発足した。

⑤追手門学院大学事件

朝日新聞 2019年06月23日付より作成

学院は16年8月22～26日、追手門学院大学（大阪府茨木市）などの事務職員18人を大阪市内のビルに集め、「自律的キャリア形成研修」を開催。講師は東京都内のコンサルタント会社が担い、学院幹部らが入れ替わり立ち会った。講師は「自己改革」などをテーマに1人ずつ、受講者全員の前で発表させ、その場で講評した。その際、受講者の一人に「腐ったミカン置いておくわけにはいかない。まだ少しは可能性があって頑張ろうとしているミカンも腐ってしまう」と発言。ほかの受講者にもそれぞれ「あなたが一番、参加する意欲、姿勢が曇っている。よどんでいる」「負のオーラばかりだ」「あなたは要らない」などと言った。